

3番（山口裕子君）〔登壇〕

おはようございます。きょうは本当に早朝よりの議会傍聴、ありがとうございます。市民の方の参加のあること、本当にうれしく思います。今後とも参加のほどよろしく願いいたします。

それでは、通告に従い私、山口裕子の一般質問を始めさせていただきます。

あいさつの中に昨日もありましたが、やはりことしの夏、佐賀北高優勝、本当にみんなが元気になるもとだったと思うんですが、私たちに言わせれば、北高の優勝、話を聞けば聞くほど、今一番欠けているもの、そういうところに光が差したような気がするんです。それは私、農業者もそうですが、本当に毎日こつこつこつこつとして、それでも被害に遭ったり台風の害に遭ったり虫の害に遭ったりと、本当に大変な毎日を送っているんですが、この北高優勝の陰に、監督も申されましたように、毎日こつこつとした中、それにお金がかかっていないところ、施設の恵まれていないところを本当に神様は見捨てないというところ、そういうところにみんなが元気のもとをいただいたんじゃないかというふうに私は思います。

今いろいろな問題が起こっておりますが、私農業者としても、市長が打ち出しておりますレモングラス、本当に新しい打ち出しとして、何とか経済性を高めようということで頑張っていたいております。でも陰には、もともとお茶で頑張っておられた日本茶というのが数年、健康茶とかこういうハーブ茶の売れ行き増大でお茶業界が大変な形になっているということも聞きます。

子供たちに大切なものを残そうという形で私も食育、いろんな運動をしておりますが、古川知事が今度台湾のほうに「J-PON」という形で販売促進をされております。でも、よく考えたらこれはどういうことかなというふうに私も一つのストレスを見ました。というのは、食育という形で教育されるときに、知事が、本当に知事から聞いた言葉で、できるだけ県産品を食べましょう、地産地消ということで推進して回っておられます。私はもう1つ環境問題として、地球温暖化という問題が本当大変になってきております。そのとき知事が、「フードマイレージというのを御存じですか」というふうに言われました。この地球温暖化を抑えるためにも、どうか地元の物、地産地消を進めていきましょうという話でしたが、やはり経済も上がらないといけません。そういうために台湾のほうに販売促進されている「J-PON」は、じゃあ農業者にとってこれは一時的なことなのかなとか、本当に持続可能な社会というところ、農業とかを考えると、本当にいろいろな問題提起がなされているなというふうに最近考えております。

しかし、農業者に対しても子育てをしている親たちにとっても、いろいろな問題が起こっております。企業を持つ方にしても。そういうときに、この北高の優勝の陰にあったこつこつと頑張っていく、そういうところに必ず見捨てられない、奇跡が起こる、本当神様が日を差してくださるということで、皆さんが元気になったんじゃないかなというふうに思います。

今後、自分もいろんな活動の中に、本当にこれはどうかなということをも市民の皆さんと語って、またこの場で語っていききたいなというふうに思います。

それでは、本題に入らせていただきます。

今回は、庁舎の活用と山内支所、三間坂駅周辺の整備について、少子・高齢化対応のまちづくりと3点上げております。3点の中で、小項目を上げていませんので、庁舎活用はこれ1点のみです。山内支所、三間坂駅周辺の整備は3項目に分かれております。少子・高齢化対応は2項目に分かれております。随時質問の中で言っていきたいと思います。

それでは、庁舎活用についてお尋ねいたします。

北方支所、本庁の武雄市役所、そして山内支所、いろんな活用が進めておられますが、まず新しいところで、本庁の活用の中で子育てルームが開設されましたが、ほかに本庁においてこういう活用が予定されているかということと、オープンしまして利用の仕方とか利用の度合いというか、そういうところをお尋ねしたいと思います。お願いします。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

私のほうからは全般的にお答えをしていきたいと思います。

本庁におきましては、現在のところ計画はありません。

議長（杉原豊喜君）

松尾こども部長

松尾こども部長〔登壇〕

今回、1階のほうに開設をいたしましたキッズステーションの利用状況でございますけれども、7月に開設をいたしまして、7月は中途でございましたけれども、月23人の利用がっております。それから、8月は122人利用がっております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

まだオープンしたばかりですから、これからだと思います。私も二、三回となくその部屋はのぞかせていただきました。本当に素晴らしいお部屋ができていますし、何かちょっと暗いなという武雄市役所の雰囲気少し明るくなったんじゃないかなというふうに思います。暗くなかったですかね。

もう3回ほど行くんですが、たまたまかもわかりませんが、お子さんとか利用のあるときになかなか行き当たりませんが、私としては、本当にいいスペースになっておりますので、子供たちに限らず、お年寄りの方というか、本庁を訪れられた方がそこに和やかに語る場ができるんじゃないかなというふうに思いました。私もそこに上がって、何か絵本とかあった

ら、ちょっと時間があればそこで過ごしたいなという気持ちになりましたので、そういう開放につながっていったらいいかなというふうに思っております。そういうお考えのところ、市長もそういう開放を進んでしていただいたと思うんですが、そういうところの進め方に対して、市長の答弁をお願いいたします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私は基本的に子育てのスペースは本庁の1階、そして北方の子育て総合交流センターというのを開設いたしましたけれども、ここは多世代、異世代交流の場にしたいというふうに思っております。したがって、市民の皆さんにお願いがありますが、基本的にキッズステーションという、あるいは子育て総合支援センターという名前はありますけれども、ここは多世代、異世代交流の場だというふうに考えておりますので、ぜひお越し願えればありがたいというふうに思っております。

特に子供たちは、今核家族化が進んでやっぱりおじいちゃん、おばあちゃんと接する機会がなかなかありませんので、そういう触れ合いの場にしていただければありがたい。子育て総合交流センターは私も見に行っておりますけれども、だんだんそういう場になっておりますので、武雄のがばいじいちゃん、がばいばあちゃんたちがいっぱい集まっていただければありがたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に市長の要望に対しての対応の早さというか、そういうところで、いい施設ができているなというふうに思います。せっかく開いてもらっても、利用がないと本当に何もならないと思います。ぜひきょうたくさんの方が傍聴に来ていただいておりますので、1階のほうですが、帰りにのぞいてみていただきたいなというふうに思います。

次に、北方支所のほうでお尋ねいたしたいと思いますが、今子育て支援センターという形で市長からもお話がありましたが、あと、武雄市の社協のほうが入ったと思うんですが、ほかに支所活用としては予定がありますでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

北方の支所の活用につきましては、今議員のほうから話がありましており社会福祉協議会、それと北方支所の3階になりますけれども、災害の備蓄保管庫ということでしております。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

議場の活用は私のほうから答えたいと思います。

議場の活用については、さまざま意見が寄せられて、今まで帯に長し、たすきに短しという状況でありましたけれども、職員から非常にいい案が出ました。それは学習室に使ったらどうかという話が答弁の勉強会のときに出てきまして、これで初めて私も納得をして、これは北方、山内、これは議会ともよく相談させていただきますけれども、学習室として開放する方向で検討したいというふうに考えております。

すなわち、例えば市立図書館であった場合に、なかなかそれが学習専用スペースにならない。それで、やっぱり一般利用者の方々からそれはやめてほしいとかという話もありますので、ただ、勉強する場というのは必要だと思います。私も家に帰ったら勉強しておりませんでした。そういうことで、未来を背負う子供たちに開放するということで、学習室として開放していきたい。そして行く行くは、あそこはスクリーンもできるようになるわけですね。ですので、これは諸条件を詰めた上で、例えば、学習塾であるとか予備校であるとか、そういうサテライト教室になるようなことも考えられないかと。いろいろ考えていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

今答弁の中で、最後のほうに塾とかそういう形も出てきましたが、北方支所のほうも賃貸スペースというか、賃貸で業者とか事業者に貸すという予定はあるのでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

お答えいたします。

北方支所につきましては引き続き検討をしていくということで、今は予定はございません。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

それでは、最後に山内庁舎の活用についてお尋ねいたします。

山内庁舎も最初の予定から賃貸スペースもありましたし、私たちが要望しておりました図書施設とか、いろんな形の予定がなっておりました。早くも障がい者のセンターということが決定して今活動がなされておりますが、今現在、賃貸スペースも含めてどのような計画が

なされているかをお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

お答えをしていきたいと思えます。

市長のほうから3階の分については発言がありましたけれども、そのほかの分についてお答えをしていきたいというふうに思います。

3階の分の旧委員会室でございますけれども、災害時の備蓄の保管庫という、それと旧議長室、応接室でございますけれども、ギャラリーということで活用を検討いたしております。それと、旧議会事務局、議員控室につきましては山内町商工会の事務所、それから、旧和会議室でございますけれども、市民団体の皆様の共同の事務所、それから、旧小会議室ですけれども、このほうにつきましては、情報通信の企業のベンチャーということで企業誘致のほうを考えてございます。市民団体ということですが、一般に言われますCSOということで、山内町の婦人会でございますとか、女性ネット、文化連盟、保護者会というような団体でございます。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

済みません、ちょっと早くてよくわからなかったんですが、市民団体というところで決まっているお部屋はどのお部屋だったのでしょうか。商工会が入るといってお部屋は議員の控室ですか。済みません、市民団体を予定されているという部屋はどこだったのでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

市民団体の共同事務所ということで予定をしています部屋は、旧和会議室ということでございます。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

わかりました。和室というのは多分議員の控室、休憩室だったと思うので、その部屋ですかね、間違いはないですか。

そのお部屋は多分決定していないと思うんですが、商工会というのは本当に最近決まったことだと思うんですが、これは賃貸スペースになっているのでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

お答えします。

賃貸を予定いたしております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

はい、わかりました。やはり財政を潤すという部分では、早く庁舎の活用が求められていると思います。商工会のほうも要望があって運んだことだと思いますが、スムーズな運営ができるようお願いしたいと思います。

また、ほかにも賃貸スペースという形であったと思うんですが、ほかにも予定が決まっているところ、計画がなされているところがあればお尋ねしたいと思います。

また、たびたび一回一回質問するのがあれですので、商工会はいつからそこに入るようになっているかということと、あと、活動市民団体に和室をといるところは正式に投げかけが終わっているのかどうかですね、その3点をお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

お答えをしていきたいと思います。

商工会はいつからかということですが、10月1日からを予定いたしております。

それと、他の支所をといることですが、今お話をしましたけれども、今の分について第1次ということで、今後引き続き検討をしていきたいというふうに思っています。

〔3番「もう1つ、市民団体」〕

市民団体の分につきましては、先ほどお話をしましたけれども、CSOということで調整をしていきたいというふうに思っています。今後、調整を図っていきたいというふうに思っています。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

ということは、市民団体は一応これからということですね。

先ほども答弁していただきましたが、私たち、その中に女性ネットワークという形が入っておりますが、利用の仕方です。昨年提案されたときに、旧町のとき産業課があった場所が、今何も使われておりません。そして、予定ではそこが図書室という形、町民が本当に図書の部屋を要望してありましたら、そこが図書室という形で予定されておりました。とても2階の

お部屋のそれを団体が見たときに、ここは図書室に向かないという形で、今本当にぼんとしてあいております。とてもオープン施設でいい形になっておりますので、もしそういうふうにご相談していただけるのであれば、元産業課のあのスペースを活動団体をお願いいたしたいと思います。ぜひ私たち女性ネットワークだけでも二十数団体がまとまって活動しております。これから地域力というところでは、皆さん本当にボランティアらの力が必要となってくると思いますので、ボランティアの力を結集するためにでも、オープン施設のその場所を早く活用させていただきたいなというふうに思っております。

それと、前回議会質問のときも言いましたが、佐賀には市民活動センターのiスクエアビルとかありますが、本当にそこがいい機能を果たしております。そこで活動する方たちがちょっと割安で印刷ができたりとか、パソコンが使えたりとか。支所もいろんな情報交換ができる場としてぜひ活用をお願いしたいと思います。それにロッカーとかも随分あいている分もありますので、それを1団体に1ロッカーぐらい与えてもらおうと、こちらのほうでそれを投げかけていただきますと、ボランティアでもいいですし、交代でその事務所に入るといって、情報の連絡をするという形をつくり上げていきたいなと思いますので、ぜひ市長、そういうところを早急に打ってほしいなというふうに思っておりますが、市長の見解をお聞かせください。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

決まっている部分、決まっていない部分が先ほど企画部長の答弁でもあったと思います。決まっていない部分については、先ほどの山口議員の御指摘を十分に踏まえた上で、市民になるべく開放すると。基本的に庁舎も市民財産でありますので、それは使っていただくように開放していきたいと。非常に参考になったところであります。

ただ、これをじゃあ永続的に貸していくかといったことに関しては、これは私は疑義があるところでありまして、例えば、1年から2年で更新制にするとか、そういった形で市民の皆さんたちの活動を見ていく必要が我々に管理責任者としてありますので、そこはお含みおきをいただければありがたいというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にありがとうございます。そういう活用のときに本当に組織内のこととか活用の仕方とかいろんな問題が出てくると思いますが、それは皆さんで協議しながら、山内町が本当に元気になるような使い方、そういうところにやっていきまして、また、さらにそれを新武雄市として結集できるような場につなげていきたいと思っておりますので、よろしくお願いい

たします。

それから、市民の声といたしまして、北方の支所とか山内の支所に入りますと、本当に閑散としていて、広々と庁舎業務がされているのはわかりますが、とても入りづらいという声があります。何かすべてを注目されたように、暇になさっているわけじゃないでしょうけど、寒々とした感じの、市職員の方の、何か目が一度に集中してこちらに向くような気がするなんていうことを市民の方から声も聞いておりますので、だれが来たかもわからないくらい中がにぎわっていて、活気づいている支所を創造したいと思っておりますので、ぜひ私たちもそのような利用、活用をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

次、庁舎活用ということで、もう1つあります。

これは一応投げかけですが、先ほど2階に予定しておられた図書施設というところで、私たち旧町民は本当に分館的でもいいから図書室というか、交流の場を整えたいと思っておりました。それで新市になったわけですが、私の前回の一般質問でも申しましたが、エポカルがありますので、ぜひ分館的な働きのできる、せめて今は幼児書とか、本当に読み聞かせの本とか、そういう本がほとんどで、みんな古本なんですね。一応そこを土曜文庫という形で、私たち女性ネットワークとかが中心になりまして、やっとここまで作り上げてきました。この場が本当に畳のお部屋で、利用している人にとってはとてもいい部屋になっております。ここが公民館ですね。だから、土曜日だけ開放していただいております。そしたら、土曜日だけはホールも開放してもらって、中学生がそこで卓球をしたりとか、小さい子供と遊んだりとか、お年寄りの方も本を楽しみにして来ておられます。でも、どうしても県立図書館の巡回も新市になったからということで断られましたので、文庫が来ておりません。武雄市のほうに巡回文庫のようにお願いしているんだけど、なかなか動いてもらえないという声があります。本を借りに来ても、全然本がありません。もともと乳幼児の本、低学年の本しかなかったんですが、そういうところで一番求められていて、人と人のつながりができる場、情報交換できる場というのが、今旧山内町にとっても求められておりますので、この公民館全体を図書施設として利用できないかという声を、今私たちが上げているわけでございます。

教育委員会の業務がその中でもなされておりますが、その業務が空き庁舎というか、その中に入ることができれば、スムーズな形で進めてもらえるんじゃないかというふうなことも私たちは話しておりますが、そういうところの考えは市長のほうはどうお考えでしょうか、お尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕



公民館のお話でございますが、公民館の目的が非常に大きい目的がございます。その中で、地域の学習拠点として現在も年間約1万人程度の利用があつているということでございます。もちろん子供たちも含まれるわけでございますけれども、今の公民館の活動、今後の活動を考えましたときに、事務室としてはあそこにあつたほうが一番利便性が高いし、地域住民の活用もしやすいものかというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

私が言っているのは、教育委員会としての業務をなされている方が四、五人支所のほうではおられますよね。と、あと公民館の館長さんという方がおられますので、公民館としての利用窓口という形は置いてもらっても、教育委員会の仕事というところの事務所を使っている、大きくスペースをとっているところは庁舎内に入れてもらって、ここを市民に開放していただくと、本当にいい利用ができるんじゃないかというふうに思います。そういうところでお尋ねしたんですが、もう一度お聞かせいただけますか。じゃあ市長、お願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

行政財産をあずかる立場から、私のほうから答弁をいたします。

基本的には、その考えは非常にいいというふうに考えております。しかし、私もよく図書館に行きますけれども、あの限られたスペースでどういう本を置けばいいのかといったことに関して、あのスペースだとどうしても中途半端にならざるを得ない。全部置くわけにいかんわけですね、いろいろあらゆる本を。そうすると、図書館が本当に図書館として機能するには、やっぱりエポカルぐらいの規模でないとなかなか厳しいのかなというのは率直に思っております。ただ、あの場所をそういった意味で、先ほど図書室という案が出ましたけれども、何か活用ができないかどうか、これはよく教育長と相談をして検討を進めたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に前向きな答弁ありがとうございます。私たちはエポカルのような図書館があれば、旧町のときからそういう図書懇話会とかいう形で進めておりました。しかし、今財政厳しい中、あるものを生かすというところを私たち活動団体にも投げかけて、ぜいたくを言わないで、本当にみんなが求めているものが充実していればいいなというふうに思っております。

和室の活用というのがほかになくて、もう本当に寂しいながら、ここは図書館と言えませ

ん。文庫という形で私たちも名をつけているんですが、それでもいいんです。エポカルとか巡回の図書ですね、県立図書も回していただいたら本当によかったんですが、それだけでもスペースを設けてもらえれば、中学生も高校生も本を広げて勉強したかったり、地元のことを調べたりするときに、やっぱり地元が元気になるスペースとして、ぜひ用意していただきたいなというふうに思っております。施設的には、そのままそっくり使える状態でないので、最低限設備投資をしなければいけないかと思いますが、私たち団体としては、そういうふうになるだけ財政負担をかけないように思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、次に移らせていただきます。

山内支所、三間坂駅周辺の整備についてお尋ねします。

これは先ほども申しましたように、1番目が県道改良のことで、2番目がネーミングライツということと、3番目に総合福祉センターの計画についてお尋ねしたいと思います。

それでは、三間坂駅から県道改良が平成11年より始まっておりまして、伊万里山内線といいますが、三間坂駅より山内支所までの320メートルですが、これがなかなか完了に至りません。旧町のと時からいろいろ問題が上がっているようですが、市民の方から、景観とか安全性とかから見て早く対応ができないのかというふうなお声をいただいておりますので、その進捗状況をお聞かせいただきたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

お答えいたします。

県道の伊万里山内線につきましては、議員見てのとおりです。あそこまで進んでいますけど、あれから用地交渉で詰まっているというところなんです。それで、その用地交渉がうまくいき次第、また次に進んでいくという状況です。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

そういう答弁は旧町のと時から聞いておりまして、やはり市民の方は、うまくいくように、スムーズに対応できるように投げかけ、努力がなされているのかなということを知りたいわけですね。そういうところから、ことしはこういう進みがあったとか、昨年からこういう進みぐあいですというような経過はないでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

お答えいたします。

議員先ほどおっしゃられたとおり、ここは県道でございます。それで、県の土木事務所のほうで用地交渉をされておられますが、土木事務所としても、努力はしているけど、全然向こうの言い分とこちらとの差があり過ぎてどうすることも今できないという状況です、ということでした。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

先ほども申しましたように、その答弁はわかるわけです。その土木事務所からの返答が去年おとしのものなのか、ことし新しいものなのかを私は聞きたかったわけです。やっぱり市民もそういう動きがあるのかなというところで知りたいわけですね。その答弁はもうよろしいです。

一応この線の改良を思うに当たって、今三間坂駅というのがちょっと話題になっております。三間坂駅だけにならず、三間坂ですね。それは今度久保君の取材とかでも、三間坂駅が映っているんですね。彼がそこから通学しているという形とか。それ以前に、黒髪山のウォークラリーとか登山客というのは、三間坂駅を利用してウォークラリーをしたり登山したりしております。

また、最近の話題としてリュ・シウォンさんの三間坂が素敵な星空というか、天体望遠鏡かなんかの歌に三間坂が出てきて、本当に私もびっくりしましたが、8月7日はぞろぞろと全国からリュ・シウォンさんのイベントにお集まりになりました。そのとき、その三間坂駅の前の道が本当に狭くはあります。でも、そこまでの改良は申しませんが、やはり景観的にも安全性なところも見て、ああ、急ぐべきだなというふうに思っております。市長もリュ・シウォンさんにかけて、また武雄が観光で有名になればというか、そういう仕掛けも望んでおられるんじゃないかと思っておりますので、ぜひそのところは進めていただきたいというふうに思っております。

また、リュ・シウォンさんでは11月にも認定第1号のイベントがあるようですので、本当に市を挙げて整える必要があるんじゃないかというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

では、次に行きます。2番目です。

これが市長の具約21に当たるネーミングライツという形になるかどうかはわかりませんが、私たち山内町が20年来、国際交流の会として山内ワールドフレンズ協議会があります。市長も皆さんも御存じのとおり、本当に大変いい、町民挙げて、また、市民挙げての活動になっております。とてもいい交流で、ビデオとかも見られたらわかるんですが、私たち訪れた人が記念撮影をするときに、本当友好都市という看板が一番記念撮影しやすい、ブルックヘイブン中学校にあたりとか、道路にあるんですね。そこで山内町の人は記念撮影をして帰っ

てくるんですが、私たちもまあ手はずが悪かったのか、一応セバストポールと交流という看板が山内入り口と有田に抜けるところにあるんですが、ぜひいい場所でもありますので、この山内中学校から三間坂駅に抜ける一本道の市道があります。本当にそれはほかの道に比べてとても景観がよく、きれいな道でありますので、ぜひここに友好都市というか、姉妹都市という形で看板を上げていただいて、そこをセバストポールロードというか、そういう道、そういう名づけができないかというふうに私たち協議会では意見しておりますが、そのことに対して市長はどうお考えであられるかお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず道路の愛称に関しては、路線選定については、今商工会議所及び両商工会で、まず路線を、ここは愛称をつけようという選定をしていただいております。その中で、民意を最大限反映するために、公募による愛称を募集する計画だというふうに聞いております。それで決まって愛称という形になると思います。私見ですけれども、そこを例えばセバストポールストリートであるとか通りであるという、非常に私はいいなというふうに思っております。その上でぜひお願いしたいのは、これはいろんな地方でも何とか通りとか何とかストリートとかってしょおぼってんですね、だれも呼ぶ人はおらんですもんね。それはなぜかという、やっぱり物語のなかけんですもんね。そいけん、もし道路の愛称がセバストポールストリートというふうに決まったときには、例えば、ウォーキングラリーを一緒にするとか、あるいは看板も、例えばぎらぎらじゃなくて布製のものをつくるとか、そういうふうに、単に当事者だけじゃなくて、広く市民とか、あるいは県民を巻き込むような通りにしないと、なかなか根づかないのではないかなというふうに思っておりますので、ちょっと申し上げたいというふうに思っております。

いずれにしても、市としては、それが決まれば案内所設置等の予算の確保、あるいは関係機関との調整等は積極的に行いたいと思っておりますので、この商工会議所を中心とする、こういう取り組みについてはありがたいと思っておりますし、全面的に支援をしております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

ありがとうございます。私たち協議会も、まあ本当に官と民が一緒になってといいますか、いいまちづくりをしたいと思っておりますので、できるところで自分たちが積極的にやるという形で執り行っていきたいと思っておりますので、本当に前向きに進めていただきたいというふうに思います。

そしてまた、毎年友好がなされておりますので、来年3月はまたセバストポールのほうが

ら訪れるという形になりますので、よければその訪問団を受け入れるときに、そこで記念撮影というか、そういう式典ができたらいいなというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、3番目になります。総合福祉センター計画についてお尋ねいたします。

これも旧町のときからこの計画が平成13年より山内町老人クラブ連合会により検討委員会が発足され、最初は老人福祉センターの建設という形で進められてきました。世の中の変化と異世代交流とか利用の仕方云々いろいろありまして、これを総合福祉センターという形で最終的には検討がなされております。

合併前の平成17年9月には、議会においても用地購入が整いました。それは建設をするという形での購入であります。地質調査が2,500千円、基本設計など2,500千円、そういう形で進んでおるところ、合併になりました。旧首長の話では、合併特例債などの活用も含めて18年、19年には総合福祉センターが整うでしょうという形で旧町民は聞かされているわけです。もうこの17年9月から2年がたちました。本当に武雄市としてどう財政、本当にいろんな計画を進める中、私たちはまだまだその話になっていませんって議員たちも尋ねられるたびに「本当に言っていきますので、ちょっと待ってください」という形を市民の方にお願ひしておりました。ここで2年がたちましたし、庁舎前の土地のところもだんだん荒れてきますし、三間坂駅前の周辺の整備ということも含めて、あと、旧の旧の庁舎が残っております。それも景観上よくないということですね。あと、商工会がそうして庁舎内に入ることになれば、話によりますと、そこは取り壊されるということも聞いておりますので、そういうことを含めて、この用地購入した土地並びにその周辺の整備の計画を早急になされなければならないんじゃないかというふうに思っておりますが、その計画をお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

古賀副市長

古賀副市長〔登壇〕

お答えいたします。

ただいまの件につきましては、昨年、ことしにかけまして町の老人クラブ、そしてまた区長会、商工会、多くの方々の御参加を得まして、市のほうに要望書が出されております。大変熱意を感じたところであります。ただ、そのとき申し上げましたように、最近の財政状況は大変厳しいものがあります。そういう形で、当分の間、新しい箱物の建設については計画がないというお答えをしたかと思えます。つい最近の県知事の発表によりましても、県におきましても3年後はこのままの状態であれば赤字再建団体に陥るといような厳しい見解がありました。県のほうでも今後どのような財政建て直しをされるのか、見きわめていきたいと思っております。

それとあわせて、つい最近、いろんな話をしておりますけど、山内町の方におきましても、このような厳しい財政状況であるから見直したらどうかとか賛否両論あるということも聞いております。幸い山内町出身で杉原議長もいらっしゃいますので、これからまた議長を含めてこの話を進めていきたいと思っているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

おっしゃることは、私たち要望を出している団体も本当によくわかっております。もう本当にはっきりしないといけない時期に来ているんじゃないかというふうに思われます。そして、山内の活性のもととなるこの施設をここ十数年計画してきたわけです。それでは、この福祉センターに見合うところで旧町の空き庁舎を十分に活用できるように、先ほどおっしゃっていただいたように、市民活動に与えてもらったり公民館のほうを図書施設にあるものを生かすというところで、準備していただいたりとか、この総合福祉センターの計画に入っていたものを、じゃあどう生かすかということになると思うんですね。だから、本当に私たちは子供たちに借金、負債を残したくないですね、これ以上に。母親としてもそうですが、そのときに本当にどの計画がいいのかというところを打ち出していきたいなというふうに思います。

それと、老人会の方たちも、本当に自分たちが憩いの場となって、さらには、最終的には孫たちの世話をしながら異年齢の交流ができて元気にできる場をと思っておられましたので、新市になりました、じゃあ新市になって北方には長寿園もあります。そして武雄にも日輪荘があります。じゃあ、そういう活用の仕方旧山内の方たちの老人会にも本当に投げかけていただきたいし、総合福祉センターで決定できれば本当にいい形ではあったと思うんですが、そういう計画のところを示していただきたいなというふうに思います。

それと、これは建設をするという形で土地購入がなされているんですが、じゃあその後この計画がなされないときには、そこを公園化するとか駐車場にするとか、新しい計画がいつごろから、何年間はできないとかそういう形があると思うんですが、次の計画がなされるんでしょうか、お尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

古賀副市長

古賀副市長〔登壇〕

老人福祉センターにつきましては建設をしないという最終結論は出しておりません。そういう形で、まだ新たに購入をされた土地の利活用についての検討には入っていない段階であります。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

総合福祉センターを建設しないということは、決まっていないということですね。でも、本当に訪れてもらったらわかると思うんですが、旧々庁舎が建ってしまっていて、そして用地も購入されているんですが、本当に駅前、支所周辺として、これから三間坂駅とか三間坂として訪れる人が多くなっております。そういうときに、市長が武雄温泉駅に大楠をシンボルとされて本当に景観をよくされているように、山内町の三間坂、その土地の活用を早く整備する必要はあるんじゃないかというふうに思います。これで商工会も出られて、商工会も取り壊されてそこはぼんとあくわけですし、社協も北方に一つになっております。そして保健センターも半分閉まったような状態でございますから、私たちも総合福祉センターで新しい箱物をというところから考えなくても、有効活用ができないか、本当に少ない投資額で整備ができないかという検討も旧町の時にしておりましたので、そういう分を含めて、計画がありませんということで、これですうっとこのまま整備されないままでいくのでしょうか。それは武雄市がこれだけ観光とか人を呼んで定住策とかを打ち出しているときに、とても誇りを持って、ここで子育てをしたいとか本当に魅力ある場所だなというふうには思えないんですが、そういうところを含めて答弁いただきたいと思いますが、市長はどうでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私は、議会はそもそもこういう政策の論争をする場だというふうに考えております。そういった意味で、私は先ほど御提案のあったように、そういった計画をきちんとつくって、きちんとそれを協議して、それでどういうふうにするかといったことについては、本当にこれは必要だということを質問を聞きながら思いましたので、計画の策定作業に入りたいというふうに思っております。ただ、その間、さまざまな関係者の皆さんの意見を聞くこととなりますので、そのときには、ぜひまた御協力方をお願いしたいというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

そのときには本当に私たち団体も一生懸命やっていきたいと思えます。

それともう1つ問題が、あとに上げておりますコミュニティーバスというところでも上げますが、三間坂駅前がもう住宅が並んでいますので、道を広くするということはできないという形で、予定にはなっていないんですが、ここが高校生とか通勤の方のラッシュで朝夕が

とても混みます。そのときに、本当に私も経験しておりますが、そういうときに保健センターとか支所前とか、その駐車場がそういう方たちのために確保されるならば、それが本当に解消できます。そういうところも含めて新しい計画を立てていただきたいなというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

では、最後の項目の少子・高齢化社会対応のまちづくりというところでお尋ねいたします。

これは1番目にコミュニティーバスの運営と、2番目に高齢者の活用の場の一層の拡大についてということで上げております。

昨日も前田議員が申されておりましたように、今回、この循環バスとか乗り合いタクシーという形で議員さんたちが五、六人上げておられるそうです。昨年私も一般質問で上げておりましたが、もう本当に私が主婦で家計簿をあずかる者として、この数年、このようなお金を投資するというか、早く解決策を立てなければならないという問題点じゃないかというふうに思います。私の身近なところで乗り合いタクシーというのがありますが、これが平成11年ぐらいから運行されて、二、三年は乗る人があられたそうですが、ここ数年、旧町のと時からほとんど空で走っている状態です。昨年私も言いましたように、何らかの対策で、本当に効率化ばかりは言っておられませんので、どうしても必要な方にはタクシーチケットとか、福祉チケットじゃないですが、何か本当に違う形の運行がなされないかなというふうに数年思っておりました。

もう本当に市の財政もそうです、家計の中の家計簿も本当皆さん同じだと思うんですが、2,500千円ほど、この乗り合いタクシーがそうです。0.3人ぐらいしか乗らないで走っておりますから、全体を考えて私も調べましたところ、私も通りました、まだこの武内若木線には乗っておりませんが、本当に海正原のバス停のところを見るんですが、それはたくさんの方が利用されています。ニーズに合わない形のもものが走っているんじゃないかなというふうに思っております。それと利用しやすい打ち出し、そういうことではないかというふうに思っておりますので、今回たまたま一般質問を先に出しておりましたら、9月の市報に本当に執行部のほうから投げかけてあります。私の地区の区長さんも、町民の方にどうか利用してくださいってもう数年言っておられます。でも乗る方がいらっしやらない。ではそれを本当に早く対処するべきだと私は思います。自分の家計の中だったら、本当に一番に対策をしたいなというところだと思います。そこを含めて、きのう本当に私がしゃべりたいと思っていたところを市長が言われたんですが、うまくいっている自治体があります。

それは1つ私が知っているところは、キャラクターとか京都屋さんの使っているようなレトロバスとか、そういうのを走らせて町民の方が活用されているところですね。それが本当は町民優先だったのに、観光客が乗りたがってすごく満車になって困っているという自治体がありました。

あともう1つは、きのう言われましたように、四季のそらが今、自分のところを出されて



いるバスと思いますが、この自治体も協賛金、ゆめタウンだったら、バス停をゆめタウンとか病院とかよく市民の方が利用されるところに停留所をつくって、その事業者から協賛金をいただいて運営するという形が成功している事例でありました。

そういうところを含めて、先ほど少子・高齢化というところから、高齢者の方も社会参加する意味でこれが利用しやすいものであることと、子供は少なくなりました。そして、甘えさせて車で送り迎えをしているわけじゃないわけですね。本当に治安が悪くなって危険がたくさんあるから、明るくてでも親は送り迎えをしないといけないという状態になっております。もう朝夕の高校生の送り迎えなんか本当に渋滞をお聞きしております。その時間帯にコミュニティバスというか、そういうバスがNPOとかであればいいと市長も言っておられましたが、本当に欲しがっているニーズのところを運営できるような体制で計画していただければというふうに思っておりますが、済みません、長くなりましたが、答弁いただきたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

コミュニティバスにつきましては、議員御指摘のとおりということで、運営経費につきましても年間2,429千円というふうな経費を補てんいたしております。1台当たりの利用者数としましても、三間坂船ノ原線につきましては0.3名というようなことで、かなり効率が悪いというふうになっております。

今後の対応策というようなことでございますけれども、利用者のアンケートの結果を見ますと、高齢者の通院がほとんどでございます。こういった分を含めまして見直しをしたいというふうには考えておりますけれども、今回お願いをいたしております公共交通会議の中で十分議論をしていきたいというふうに思っております。この中では今議員の御指摘がありましたように、なるべく空車で運行をすることがないように、例えば登録予約制にするとか、デマンド方式というふうなことでございますけれども、それらも踏まえて協議をしていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

会議が今後開かれるということですので、よくこういうのが新しく決まるときに、本当に住民の身近な声、本当にニーズに合ったものになるために、そういう声をぜひ入れていただきたいというふうに思っております。よろしく願いいたします。

次、最後になりますが、少子・高齢化社会対応のまちづくりの中で2番目に上げております、老人力とか高齢者の活躍の場の一層の拡大についてというところで質問いたしたいと思

います。

武雄市としては、私も聞き取り調査の中で、いろんな形でこの事業を用意しておりますよということでありましたが、それが教育委員会であったり、福祉課であったり、こども部であったり、いろんなところで打ち出しはされております。しかし、なかなか住民にとって、市民にとっては参加ができていないんじゃないかというふうな声も聞かれますので、どういふふうな事業がありますかということと、その活用の仕方、利用度のぐあい、そういうところをお聞かせください。

議長（杉原豊喜君）

松尾こども部長

松尾こども部長〔登壇〕

お答えいたします。

老人力の活用でございますけれども、現在、市内各地で子供たちの通学合宿とか放課後子ども教室、また、異世代間の交流など、これを総称してトムソーヤ事業と言っておりますけれども、これを現在行っておりますけれども、その中で老人の方々の力、特にこれまでの知恵とか知識、経験を生かしていただいて、子供たちの健全育成、コミュニティーの活性化につなげていっております。今後も老人の皆様方のそういう知恵、知識、経験等を生かした事業を展開していきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

國井くらし部長〔登壇〕

福祉関係で老人クラブ等をやっているわけでございますけれども、老人クラブ等に国、県から補助金をもらいまして事業を行っております。その中で異世代交流ということで、花づくり、しめ縄づくり、グラウンドゴルフ、こういうような事業を行っております。プログラムにつきましては、やはり老人クラブさんも考えておられますので、地域の方とお話できればということで、どんどん御意見を寄せていただければと思っております。

そして、長く永続的に続くというのはやはり地域の中でやらないといけないということで、私も公民館にありましたけれども、お金を流したらその補助金がなくなれば、事業もすぐ終わるわけですね。やはり地域の方が地域で必要なものをどうするかということを考えていただきたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

2部長の答弁に補足をします。

8月15日に武雄のがばいばあちゃん「G A B B A」の方の平和教育がR K Bであったのを

ごらんになられたでしょうか。これは、実はもっと戦争ということ自分の現体験で、1人の人が自分は残留孤児になりかけたと言ったりとか、いろんなさまざまな御苦労、妹を亡くされたりとか、それを生きる知恵、生きる喜びを包含して子供たちと、あれは山内西小学校だったと思います、そこでがばいばあちゃんと山内西小学校での特別の授業があったのが18分間にわたって8月15日に放映をされました。これが視聴率が10.3%という極めて驚異的な、あの時間帯での数字だったということからかんがみると、こういった自分たちが背負ってきた人生、あるいは苦労した経験というのを伝えるという場が教育の場にもう少しあればいいなというふうに思っております。ただ、カリキュラムはカリキュラムとしてありますので、それは最大限尊重しなければいけません、例えば、もうRKBには許可をとっておりますけれども、この前のビデオ、DVDがもうあるわけですね。これをぜひ一たん地域、先ほどの交流の場、あるいは教育の場に取り入れてもらって、それでもやっぱり生で聞きたいということであれば、そういうふうにまた機会を設けていくということが必要なのではないかなというふうに思っております。

例えば、おじいちゃんとかおばあちゃんとか、我々大人がダイレクトに言っても、やっぱり子供は「うっ」てなるわけですね。僕なんかはおじさんが来んさったとかと言われるわけですね。だから、そういう今、映像というのはやっぱりすって入っですもんね、子供たちに。だから、そういうふうに、うまくきっかけづくりをやらなきゃいけないのかなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に今社会問題がいろいろ起こっておりますが、一番大切なところがここに私はあると思います。やっぱり生きる力とか、本当に先輩たちから、親たちから次々に伝えられていかなければならないものが何かしら欠けていって、いろいろな問題が起こっているんじゃないかなというところをやっぱり執行部側として努力されて、いろんな事業を打ち出されている。しかし、なかなかそれが活用されなかったり、たくさん補助金を出して用意されているけど、なかなか本当に参加してほしい人に参加いただけないとか、そういう形態もあるということをお聞きしましたので、もう今、市長の答弁にありましたように、旧山内町のときには黒髪大学というのが老人会のほうでありまして、この黒髪大学の方たちが生涯学習の交流で西小学校で交流するという場が、老人の方たちもすごく元気になって、子供たちも老人の方たちからいろいろなものを習って、すごくいい交流ができていますということを聞いております。

だから、今後ますますこういうふうに人と人がつながっていくところですね。それと生きる力というんですか、戦争体験とかこうやって生きてきたんだよとか、そういうところを家

庭とか地域というところで本当は取り戻さないといけないんですが、今はもう家庭も核家族になっていて、やはりそこを取り戻さないといけないんだけど、その力を借りたくないという子育て中の親たちとか、私たちは本当に知らない部分で来ているところがあると思いますので、ぜひいい事業がなされておりますので、それに参加しやすいような形で行政のほうもやっていただきたいなというふうに思います。

今1階のキッズルームとか北方の子育てルームができましたので、そこで案内されると、また若いお母さんたちも目にとまると思いますし、どんどん私たち子育て中の親たちは自分たちだけではどうしようもないところに来ておりますので、ぜひ先輩方の力をかりて子育てをやっていきたいと思っております。

あと、いつも市長がぬくもりのある武雄市というふうに人と人が触れ合って助け合っているような、市民と行政と一緒に協働できるまちづくりに努めてまいりたいと思っておりますので、今後とも本当によろしくお願いしたいと思っております。

これもちまして私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。